

今後の安房地域の耕畜連携のあり方を考えよう！

～どこの地域も悩みは一緒?!～

安房農業事務所改良普及課 令和8年2月19日発

安房地域では令和4年度から毎年、稲 WCS をはじめとする耕畜連携について、他地域の先進事例を視察しています。今年度は2月4日にいすみ市の耕畜連携を学ぶ視察研修会を開催し、管内の水稲農家及び畜産農家18名と関係機関2名が参加しました。

視察研修会では、いすみ市の酪農家を訪問し、稲 WCS や飼料用米、食品残さの利用の事例を見学しました。また、稲 WCS の裏作として取り組む飼料用トウモロコシや、今後の展望についてもお話を伺いました。令和7年は、主食用米の価格が高騰した影響で、水稲農家による飼料作物の作付面積が減少し、十分な量の自給飼料確保が困難となりました。このような状況は県内外でも見受けられており、今後のより良い耕畜連携のあり方について、参加者からも様々な意見が出され、有意義な情報交換ができました。

農業事務所では今後も耕畜連携の参考になる研修会を開催していきます。



実際に稲 WCS のロールを見せていただきました。



皆で情報交換。限られた時間の中でいすみ市の耕畜連携の実情を伺いました。